

# 正しく知ろう！ 新型コロナウイルスから自分自身と周りの人を守るために

感染リスクを下げる方法として、「ワクチンの接種」や「飛沫感染、接触感染を避ける」などの感染予防を徹底することがあげられます。

ワクチン接種については、SNSやインターネットなどで副反応に関する様々な情報があふれ、特に若い世代の方の中には、接種に対して不安を感じている方も多いのではないのでしょうか。ワクチン接種について正しい情報を知り、理解した上で接種の判断をしましょう。

## ワクチンQ & A

**Q** ワクチンにはどんな効果があるの？

**A** ワクチン接種しても、感染を完全に防ぐことはできませんが、発症と重症化を抑える効果があります。

ファイザー社のワクチンでは、約95%で発症を予防する効果が確認されています。

ただし、100%ではないので、接種後も感染予防対策を継続することが必要です。



市では、全ての方にファイザー社のワクチンを接種しています。

**Q** 感染力が強いと言われる変異株(デルタ株)にも効果はあるの？

**A** ウイルスは絶えず変異を起こしていくもので、小さな変異でワクチンの効果がなくなるわけではありません。

**Q** 2回目の接種後の方が副反応が強いと言われるのはなぜ？

**A** 1回目のワクチン接種で、いくらかの免疫がつくことで、2回目の接種の方が免疫反応が起こりやすくなり、発熱や倦怠感、関節痛などの副反応が出やすくなります。

**Q** 妊娠中、授乳中、妊娠を計画中でもワクチン接種できますか？

**A** いずれの方も、ワクチン接種することができます。日本で承認されているワクチンが、妊娠、胎児、母乳、生殖器に悪影響を及ぼすという報告はありません。

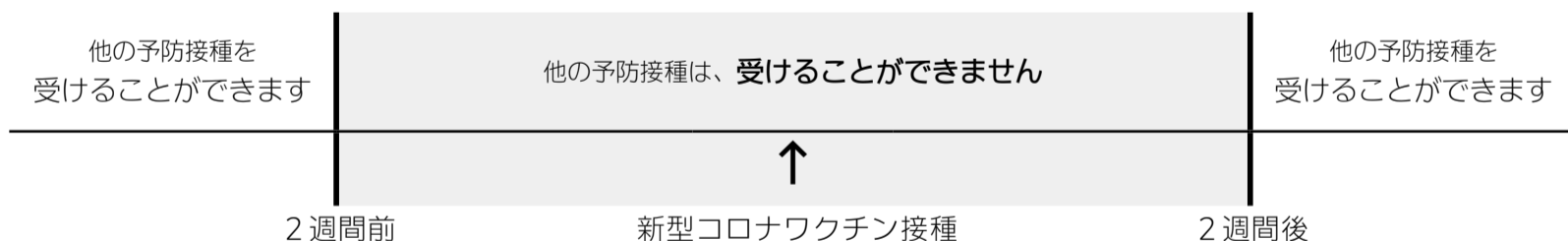


**Q** 若い人は感染しても症状が軽いのか？

**A** コロナに感染すると、若い方でも酸素投与が必要になったり、後遺症で数か月間、つらい思いをする方もいます。若い方も、感染予防対策が大切です。

## 他のワクチンを接種するときは

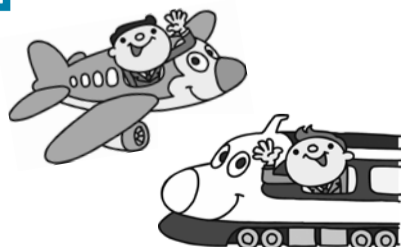
秋から冬にかけては、インフルエンザワクチンなどの予防接種を受ける方が多くなる季節です。他の予防接種を受ける場合は、前後2週間の間隔をあける必要がありますので、注意しましょう。



## 身近な人や自分を守るための慎重な行動を！

全国的に感染者が増加する中、誰もが感染者や濃厚接触者になる可能性があります。特に、次に当てはまる方は、慎重な行動をお願いします。

感染拡大地域に行った



感染拡大地域から来た人と接触した



接触した人が、感染していたことがわかった



無症状での感染も増えており、より一層、行動に注意する必要があります。熱がなくても、風邪症状があるときには外出を控えたり、仕事や学校を休みましょう。